

KAGAYAKU かがやし

題字：木版
西野一男さん

40

生涯学習情報紙：生きがい探しのパートナー
感動人生！ここに生きる元気な人間



▲テレビドラマ主題歌「麦の唄」の練習



▶楽器の説明をする諸井さん



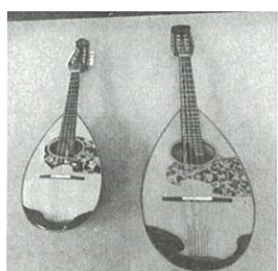
▲音楽クラブが競演



▲幼稚園でコンサート



▲お年寄りも大喜び



▲低音域のマンドラ(右)

■入間マンドリンクラブ(扇町屋) トレモロを楽しみましょう



音楽は好きだけど、楽譜を読めないし、楽器を弾くのは難しいだろうな、と諦めていますか。

「やる気があつて、始めるきっかけさえ掴めれば、誰でも弾けるようになります。こんな頼もしいエールを送ってくれるのは、入間マンドリンクラブ(代表 壁矢和代さん、会員10人)の皆さんです。

所沢マンドリンクラブに所属していた壁矢さんたちが、入間市にもクラブを作ろうと計画。音楽が好きな仲間に呼びかけて、平成16年に扇町屋公民館で練習を始めました。メンバー10人の内、4人は初心者でした。所沢マンドリンクラブの諸井美津江さんが発足当初から指導を引き受け、童謡、唱歌、シャンソンなど、年々レパートリーは増えています。

発足後は地域の文化祭への出演や、老人ホームへの慰問などで、練習の成果を披露しています。

メンバーの一人が、マンドリンとの関わりを話してくれました。

「明治生まれの父は、西洋音楽が好きなどともハイカラな人で、よくクラシックの名曲をマンドリンで弾いていました。子守歌のように聴いて育ったので、マンドリンの音色は私

の人生そのもののような気がします。」

メンバーには、入会前に、ウクレレ、ピアノ、琴などを弾いていた人、合唱団に入っていた人などがおり、音楽が大好きな人たちの集まりだと分かります。

「50代、60代でマンドリンを始めたメンバーがほとんどで、どんどん上達しています。音楽が好きなら、年齢は関係ありません。」皆さんが口を揃えて、励ましてくれます。

「ラ・クンパルシータ」の練習を聴かせていただきました。

「最後の小節、ウタタン、ウタタンタタッ。リズムに合わせて、迷子にならないで。」と大事な所では指示が出ます。

「マンドリンは2本の弦が一緒になっているので、同じ音を反復して弾くトレモロが軽やかに響くのです。マンドリンの「リン」は可愛いという意味。左手を使うと脳に刺激が伝わり、老化防止になるそうです。一緒に始めましょう。」と諸井さん。

クラブのメンバー3人が、毎月2回、入間市のデパート近くのカフェレストランで、マンドリンのライブを開いています。

世界中で愛されるアフガン編み

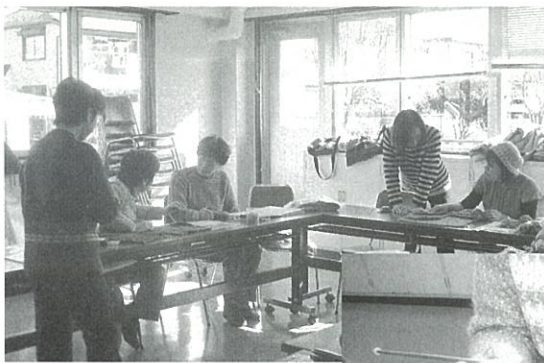
■アフガン編み美浦会（扇町屋）

うわーっ！、きれい……。色とりどりの糸で編みこまれたセーターやカーディガン、ストールなどが古くから世界中で愛されているアフガン編みです。

扇町屋公民館で、平成五年頃からアフガン編みを楽しんでいるという教室を覗いてみました。

朝から十数人の生徒さんたちが編み物に取り組んでいました。

アフガン編みに使用するのは、かぎ針と棒針の長所を生かした編み棒。いろいろな素材の組合せが自由にでき、縦糸や横糸の構成が型崩れしない特長があり、仕

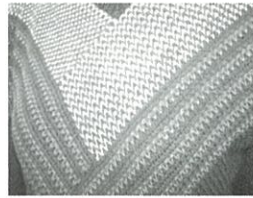


▲教室全景

一目一目でいねいに▶



◀美しいベスト



▼楽しく編んでいます



上がりがとてもきれいです。一目一目編んでいって、引きながら戻った所で一段と数えるそうです。

レース風、ツイード風、織物風、編み込みなど、手編みとは思えないしつかりした作品が出来上がります。

「いろいろなものを習ってみました。この編み物だけは面白くて続いています。」と、生徒さん。また、「これは、弟のベストを編んでいるのよ！」という方や、完成間近の作品を「自分のセーター」と見せてくれる方もいました。

みんな楽しそうに編んでいるので、二人の講師、相沢洋子先生と菅野啓子先生の指導にも熱が入ります。

この美しいアフガン編み。二度ご覧いただくと、素晴らしさが実感できると思います。



■入間市国際交流協会

エチオピアの家庭料理

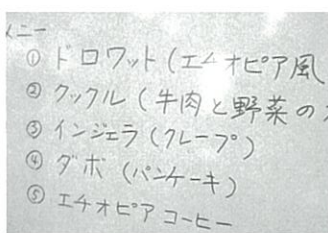
「台所から世界を知りましょう」をキャッチフレーズに、世界の家庭料理を楽しんでいる教室があるのをご存知ですか。

年三回、入間市国際交流協会が主催しているこの教室は、いろいろな国の味が楽しめることで好評を得ています。

今日は、エチオピアの家庭料理の体験です。健康福祉センターの調理実習室には、国際交流協会会員や広報・国際交流ニュースを見て応募した市民、三十数人が集まっていました。

調理室のホワイトボードには、聞いたことのないような「本日のメニュー」が。

- ① ドロワット(エチオピア風チキン)
- ② クックル(牛肉と野菜のスープ)
- ③ インジェラ(クレープ)
- ④ ダボ(パンケーキ)
- ⑤ エチオピアコーヒー



▲メニュー一覧



▲さあ、忙しくなるぞ！



▲今日の料理の説明

これらの作り方を指導するのは、エチオピア出身の美人講師、伊藤イヌエさん(右・顔写真)です。

日本に来て二十数年になるという彼女は、国際結婚をし、二人のお子さんを育てるベテラン主婦です。

料理も、手慣れた手つきで、次から次へと作っていきます。

香辛料を何種類も使うのがエチオピア料理の特徴だそうで、日本にない食材は母国から取り寄せます。

出来上がった料理をみんなで食べた後は、エチオピアの話で盛り上がりました。この時間もまた、異文化を知る良い機会になっています。

「さまざまな国の、さまざまな人たちと交流して、その国の文化を知ることが、とても楽しい。」と、参加者の一人が話してくれました。

異文化交流を楽しむきっかけは、身近な台所にあるようです。



■入間市スポーツ推進協議会会長 書間達夫さん(金子)
『いつでも、どこでも、だれでも』スポーツを!!

入間市スポーツ推進委員は市教育委員会から委嘱され活動しており、「スポ進(すぽしん)」の愛称で呼ばれています。彼らは入間市におけるスポーツ事業の推進や実技指導、助言などを行うスポーツの専門家です。

スポーツ推進委員協議会は、現在市内10地区の体育協会から推薦を受けた39人、市教育委員会推薦の10人、合わせて49人のスポ進で構成されており、男女比率は3対1。近年、女性の活躍が目立っています。

スポ進協議会の活動には自主事業(健康体力測定、ロープジャンピング大会、フライングディスク教室など)と入間市体育協会と協力して行っている事業(ラジオ体操会、グラウンドゴルフ大会、彩の森クロスカントリー大会など)があります。ここでは紹介しきれないほど活発に活動して



▲協議会の様子



▲ロープジャンピング大会であいさつ



▲楽しい親睦旅行!!

これから入間市のスポーツ推進のために活躍されることでしょう。

いる会です。

平成19年4月からこの会の会長として活躍されているのが書間達夫さんです。書間さんは、昭和63年5月から現在まで、スポ進として市内スポーツ事業の推進に尽力されています。「今、入間市では週1回以上スポーツを行う人たちの割合を50パーセントにしよう」と頑張っています。スポ進も『いつでも、どこでも、だれでも』できるスポーツを提供できるように、研鑽しています。「書間さんのスポーツに対する熱い思いが伝わります。

昨年、スポ進として、地域スポーツの推進に功績顕著な方を表彰する「文部科学大臣功労者表彰」を、また今年1月には「入間市有功表彰」を受賞されました。

書間さんは「これは、諸先輩や共に活動してきた委員の多くの支えがあつての受賞と感謝しています。」と語ってくれました。

■入間「謡曲の会」(久保稻荷)
伝統芸能を楽しむ

練習会場の重い扉を開けると、心に染み込む声が届きます。今日も入間「謡曲の会」の勉強会が行なわれています。

入間「謡曲の会」は謡曲の観世流を学ぼうと、平成4年6月に久保稲荷公民館で発足しました。現在50代から80代の男性女性合わせて9人が参加しています。

会の発足のいきさつについて代表の森本文江さんは「自宅では、家族に遠慮して大きな声が出せません。また、節回しなどは独学では難しいことなどから、先生にお願いをして公民館で活動を始めました。」と話してくれました。



▲和気あいあいの勉強会

会の講師をつとめる片田一以さんは、観世流の謡曲を始めて50年以上になります。謡曲についてお聞きすると「先ずお腹の底から声を出すこと。それから、胸を張って姿勢を正しくしないと声が出せません。謡曲の内容を理解すると歴史や時代が分かることなどから

知識が豊富になります。」と謡曲の楽しさについて教えてくださいました。

練習は、あらかじめ用意された謡本にしたがって、講師の謡い出しで始まります。途中節回しを間違えたりすると注意が飛び、謡い直します。「謡本をよく読んで、意味の分かりにくいひらがなの部分は深く解釈して、裏にあるものを感じて謡うように。」と片田さんは指導します。会員の皆さんも片田さんの指導で練習を積んできたので、覚えるのも早く、2、3回で自分の物にするそうです。

会に最初から参加している大森聰史さんは謡曲を始めたきっかけについて「昔見た映画で嵐寛寿郎扮する鞍馬天狗が、謡いながら京の町を歩く姿に憧れて謡曲を始めました。」と話してくれました。窓から陽の差し込む明るい部屋で謡曲の練習が続きます。



▲指導する片田さん



■ステップ・アップ（藤沢）
子どもたちは踊るのが大好き!!



「お待たせしました。いよいよステップ・アップの皆さんの登場です。」入間万燈まつりの特設ステージに、カラフルな衣装の子どもたちが勢揃いし、軽快なヒップ・ホップの曲に乗ってダンスが始まりました。

観客席に集まったお母さんやお父さんたちから、大きな拍手と声援が送られます。陽が傾いて風も出てきて、肌寒い午後でしたが、元気にプログラム通りに踊り切りました。

「ステップ・アップ」（代表 大野ゆう子さん 会員44人）は、ヒップ・ホップダンスを習いたい子どもたちが集まり、藤沢公民館で活動を始めて20年近くになります。ソウルキッズ（年長〜小学3年生、19人）、ソウルドリーム（小学4〜6年生、17人）、マックス（中学生、8人）の3つのチームに分かれて練習しています。指導しているのは、野村明美さんと阿部晴子さんです。

毎週木曜日の夜に練習をしている公民館を訪ねて、小学4年生の子どもたちに話を聞きました。



▲練習する Soul Dream



▲Soul Kid's のチアダンス



▲クリスマス会に全員集合



▲年長組の「おどるポコリン」



▲万燈まつりの大舞台

「1年生の時から始めて、ずっと姉妹みたいに一緒に練習ではむずかしかった所が、発表会で思った通りにできると最高にうれしい。先生は超クール!!」（彩音さん、美波さん、琴音さん、麻尋さん）
12月の生涯学習フェスティバルのようすを少し紹介しましょう。

幕開けは、新しく入った子どもたちによる「おどるポコリン」です。少し緊張しているようですが、元気に楽しそうに踊っていました。続いて、ドリームが「オールナイト・ロング」、キッズが「ロリポップ」。若者に人気のある曲を見事に踊ってくれました。

子どもたちが毎年楽しみにしているのが「クリスマス会」です。サンタやトナカイなどに扮装して、お母さんやお父さんたちの前でポーズを決めて自己紹介。いす取りゲームや障害物競走はハプニングの連続で、元気な歓声が冬

◎いるま生涯学習フェスティバル 実行委員を募集します!

第21回いるま生涯学習フェスティバルの実行委員を募集します。詳細については広報いるま4月15日号をご覧ください。

◎生涯学習情報紙「かがやく」 広告募集!!

「かがやく」は年2回発行し、広報いるまとともに全戸配布する生涯学習情報紙です。各種宣伝や募集など、広告を掲載してませんか?

●お気軽にお問い合わせを!
担当:市教育委員会生涯学習課
TEL 2964-1111(内4124)



▲野村さん(左)と阿部さん

の寒さを吹き飛ばしてくれまし

指導しているお二人は、こんな期待をかけています。

「子どもたちは、学校や学年にとらわれずたくさん友だちをつくって、楽しく練習を続け、自信をつけて上のレベルに進んでいきます。この元気で、学校の勉強や運動も頑張つて欲しいですね!」

◎編集後記◎

●高齢化社会が抱える問題は数えきれませんが、老人が犯罪の標的にされるニュースを聞くのは堪えがたいことです。自分が生きるために、盗んだり傷つけたりすることしか考えられない人がいる社会を変えたいと思います。(ST)

●公共の場では、さまざまな人がそれぞれ自分の居場所を確保し、趣味やその他の活動に励んでいます。学びの春です。公民館や図書館など、あなたも出掛けてみませんか。(HT)

●新学期を迎えると、近くの小学校から校庭で遊ぶ児童の音が聞こえてきます。元気に走り回る子どもたちの声を聞いてみると、元気が湧いてきます。さあ!今日もがんばろう!! (MK)

●本紙「かがやく」も遂に40号。年2回の発行で、20歳を迎えました。生きがい探しの情報源として、試行錯誤しながらの20年。少しは磨かれてきたでしょうか? (NT)



企画編集:「かがやく」編集委員会
発行:入間市教育委員会生涯学習課

お問い合わせ 入間市教育委員会生涯学習課
連絡先 〒358-8511 入間市豊岡1-16-1
TEL 04-2964-1111(内線4124) FAX 04-2964-4841

